

町小だより

平成30年
5月30日
No. 619
御免町小学校

「自己実現」の基礎を培う

校長 藤井 聡

先日は、運動会においでいただき、誠にありがとうございました。この日は、私の心の中も1日中快晴でした。御来賓の皆様をはじめ、多くの保護者の皆様、地域の皆様からおいでいただき、盛大に運動会を行うことができました。皆様の声援が子どもたちにも届き、最後まで、立派な姿を見せてくれました。

さて、私が御免町小学校に赴任して初めて記す学校だよりの巻頭言です。まずは、最も根本的なことを記すことにいたします。

学校は、児童が自己実現を図るための基礎を培う場である

人は皆、異なる価値観をもって生きています。それは、教育によって形成されたものです。子どもたちもいずれ、自分で自分の進む道を選択し、自分の力で切り拓いていかなければなりません。学校で営まれる様々な教育活動は、そのひとつひとつが重要な意味をもつものであり、子どもたちの自己実現に向け、有機的に結びつきあっているものです。
(平成30年度 御免町小学校 学校経営方針より)

人は、目の前の事象に一喜一憂しながら生きています。それは毎日を一生懸命に生きている証拠なのだと思います。「今日は、こんなにうまくいった。気分がいい。」と感じる日もあれば、「なんで、うまくいかないのだろう。なんで、自分ばかりがこんな目に遭っているのだろうか。」と嘆く日もあります。それでも、明日はうまくいくことを期待しながら誰もががんばっているのだと思います。

学校教育においても同じことが言えます。子どもたちも感情や人格、プライドをもって生活していますから、教師の言うことをきちんと受け止めてくれる日もあれば、そうでない日もあります。学習に集中できる日もあれば、そうでない日もあります。そして、親も教師も目の前の子を見て一喜一憂します。

目の前のことに一喜一憂することはいけないことではないと思います。しかし、「子どもを育てる」「教育する」ということは、もっと遠くを見つめることだと思います。今現在見せている子どもの姿をとらえ、その姿から将来大人になった時の姿を想像していくことが重要です。また、うまくいかなくて苦しんでいることがあったとしても、それは大人になるために必要なことであったり、将来役立つ大きな力になることであったりするのかもしれませんが。大人がよく考えて指導に当たる必要があります。

自分が望む職業に就くことや自分が思い描いた生き方をすることなど、子どもたちの『自己実現』に向けての基礎となる力を小学校時代に育んでいきたいと思います。どうか、御理解と御協力をお願いいたします。